

令和5年9月29日

10月号

緑小だより

横浜市立緑小学校



ふれあい 学びあい みとめあう みどりっ子

Mail : y3midori@edu.city.yokohama.jp URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/midori>

体験したことはわかる

校長 寺澤 みゆき

日中は、いまだ気温が 30℃を超える日が続いていますが、朝夕の涼やかな風やどこからともなく聞こえてくる虫の音に、秋の風情を感じる気候になりました。授業再開から 1 ヶ月が経過し、子どもたちの生活リズムも整い、学習や運動に集中するには最適な季節です。

緑小学校でも、先月後半から 11 月までの約 2 ヶ月の間に、社会科見学や遠足、修学旅行や宿泊体験学習など、学年ごとに校外学習を実施します。社会科見学や遠足は当日だけでなく、必ず事前にも学習をします。また、引率する職員も、何ヶ月も前に下検分に赴き、学習や当日の行程の計画を立て、教育委員会に計画書を提出します。このように、準備にも計画にも時間がかかる社会科見学や遠足をなぜ行うのか、今月の学校だよりでお伝えしようと思います。

今から約 2500 年前の中国の思想家、老子の言葉に「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、わかる」というものがあります。また、それを受け行ったアメリカの研究者による、「学んだことをどれくらい覚えているか」という記憶の調査では、「聞いたことは 10%、見たことは 15%、聞いて見たときは 20%、話し合ったときは 40%、体験したときは 80%」という結果だったそうです。

受動的なものより、能動的で多くの感覚を使った経験の方が、より鮮明な記憶となって残ります。保護者の皆様もご自身の子どもの頃の記憶を振り返られると、頷かれることでしょう。

もう一つ、記憶に大きく関係する話として、ドイツの心理学者 エビングハウスの忘却曲線をご紹介します。

エビングハウスは、自ら「子音・母音・子音」から成り立つ無意味な音節 (rit, pek, tas, …etc) を記憶し、その再生率を調べ、この曲線を導いたそうです。結果はこのグラフのようになりました。

20 分後には 58%、1 時間後には 44%、1 日後には 26%しか思い出せず、1 週間後には 23%、1 ヶ月後には 21%まで記憶が減ってしまったということです。

新しいことをどんどん聞いても、聞いただけでは定着せず、意味がないことになってしまいます。人間の忘れるということを前提として、学習活動を計画する必要があります。

教室で学んだことを宿題などで繰り返し復習し、更に体験を通して学び直すことで、記憶を強化することができます。

教科の内容に加え、目的地までの行程で学ぶ交通ルールやマナーなども、大切な学習です。

保護者の皆様には、弁当等、持ち物のご準備をお願いしますが、子どもたちの豊かな学びのため、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

